

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300190
法人名	社会福祉法人 愛美会
事業所名	グループホーム 三島の杜
所在地	愛媛県四国中央市上柏町202-1
自己評価作成日	平成 28 年 2 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設し、はや2年が経とうとしています。居室の大きな窓からは、景色を一望することができ、四季の移り変わりを目の当たりにすることができます。殊に夏には、花火大会をユニット内から見て楽しむことができます。「尊厳を守り、個性を大切に、その人らしい生き方を」という目標には、これまで通りの暮らしが継続でき、ご利用者様の意思を尊重し、その人らしく過ごして頂きたいという思いが込められています。そして、それが実践できるように職員が一丸となって努めています。看護師を2名配置し、日常の健康管理は基より医療連携体制が整っている為、ご利用者様やご家族様に安心して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域密着型介護老人福祉施設等に併設されている。法人の理念を踏まえて、職員間で話し合い行動目標を作成して、利用者が安全に笑顔で過ごせるように日々の暮らしを支えている。利用者が穏やかに過ごされていることからそのことが伺える。事業所を福祉のコミュニティの場として地域住民の健康づくりに提供するなどし、地域の方々と信頼関係を構築している。また、職員の研修会の参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会への参加の機会が豊富である。法人は総合病院を運営しており、密接な医療連携を活かして看取りにも積極的に取り組んでおり、利用者や家族には安心につながり、高く評価できる点である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム三島の杜

(ユニット名) りんどう

記入者(管理者)
氏名 香川 美保

評価完了日 平成 28 年 2 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を基にご利用者やご家族様への支援を心掛けている。職員間においても同様に共有し実践している。</p> <p>(外部評価) 開設当初に作られた理念を事業所内のよく見える場所とスタッフルームに掲示している。理念を踏まえて、事業所で行動目標を作成して各ユニットに掲示している。相手の気持ちに寄り添って利用者の日々の暮らしを支えている。毎月1回職員会で理念について話し合いを行い、職員間で共有し実践につなげている。新人職員には、入職時に法人での研修会で理念の趣旨を説明し共有するようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 天気の良い日には施設内の散歩をし、施設周辺を散歩されているご近所の方と挨拶を交わしている。介護予防教室を開催し参加して頂いている。夏祭りや秋祭りにも、地域の方々と交流することができた。また、幼稚園児が来所し、楽しく交流することができた。「鶴亀」が施設内で実演販売をし見学したり食べたりと楽しく過ごせた。ご近所の方も買いに来られた。</p> <p>(外部評価) 事業所周辺の畑に花や野菜作りをしており、近隣の方と挨拶を交わしている。事業所の交流広場で介護予防教室を開催し、複合施設の利用者や地域住民と一緒に、毎月1回ボールを使った「貯筋体操」を実施し積極的に交流を深めている。また、近くの幼稚園児の訪問があり、肩たたき等の交流や毎月1回傾聴ボランティア2名の訪問があり、利用者の楽しみになっている。複合施設の夏祭りには家族ほぼ全員が参加しており、管理者は、今後地域の方にも参加を呼びかけ交流を図りたいと考えている。自治会には加入していないが、地元の職員から地域の情報を得ることができる。地域の祭りに参加したり、複合施設に図書貸し出しコーナーを設置して地域との交流に積極的に取り組んでいる。</p>	利用者が暮らしていくためには、地域とのつながりが大切であり、複合施設として高齢者の福祉の情報提供や、運営推進会議で地域との交流について参加者と意見交換を行い、積極的に地域との交流を深めていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 入居者の親族の方より、他施設も含めた利用の相談などがありアドバイスした。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、事業報告、事故・ヒヤリハット報告、活動状況などを報告を行っている。その際意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、民生委員、地区役員、寺院住職、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会議では、事業所の活動報告やヒヤリハット報告など参加者との意見交換が活発に行われている。また、避難訓練の見学をして意見交換を行ったり、テーマを決めて高齢者介護の知識が深められるように講演を実施している。参加できない家族には家族会で会議の報告をし、毎月家族に送付している「〇月のおたより」で運営推進会議の参加をお知らせしている。</p>	<p>運営推進会議は、参加者に事業所の様子や取組みを理解してもらい、地域住民との信頼関係を得る良い機会であり、多方面の福祉に関わる行政の意見をもらい、サービスの向上に活かしていくことが望まれる。また、地域住民の参加ができるよう働きかけしていくことを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域包括支援センターの方や高齢介護課の方が運営推進会議に参加して頂き、事業所の実情や取組みを伝えている。市の担当者が一人の利用者様の退去に関して協力して頂いた。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に地域包括支援センター職員か市職員いずれかが参加し、意見や助言をもらっている。3か月に1回開催されるグループホーム交流会は、担当の事業所がテーマを決めて話し合いを行い、市担当者も参加している。また、分からないことや疑問点がある場合には、その都度相談を行い助言を受け協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束の研修を受けた職員が勉強会で報告し、身体拘束の内容や身体拘束をしてはいけないと意識付けを行い取り組んでいる。土・日・祝日は、日直者の方が外部の方の時間があるので施錠している。平日は、入居者様の状態に応じ、9時～17時の間は開けるように努めている。</p> <p>(外部評価) 法人の施設全体会を毎月1回開催し、身体拘束の研修を行い、身体拘束をしない方針が職員に根付いている。職員会でも勉強会を行い新人職員の基本的な理解を深め、職員間で共有している。利用者の安全面を考え、夜間のみ歩行の不安定な利用者センサーマットを使用している。家族には入居時に身体拘束をしないケアの取組みについて説明をしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の研修を受けた職員が勉強会で報告し周知している。不適切な言葉掛けがあれば、職員間で注意しあっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 入居者1名の方が、成年後見制度の補佐人を弁護士に依頼している。また、成年後見制度について学べるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前の面接にて事業所の説明を行っている。契約時には、重要事項説明書を用いてご利用者様・ご家族様にわかりやすく説明している。また、その際、不安や疑問点を尋ね、わかりやすく説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や家族会開催時、また、担当者会議等にて、ご利用者様やご家族様のご意見やご要望をお聞きしている。また、家族会開催時にアンケート調査を実施し、運営に反映するよう努めている。 (外部評価) 利用者には日々の暮らしの中で、家族には面会時や運営推進会議で要望や意見を聞いている。家族会を年2回開催し、日程は事業所が決めている。来所時アンケート調査を実施、参加できない家族にはアンケートを郵送し確認をし、家族の意見や要望を利用者サービスの向上に活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の職員会で管理者と職員の意見や提案を聞く機会を設けている。解決が難しい場合は管理者から施設長に相談し対応している。9月の職員会では、施設長が参加し、共用型デイ開設に関して職員が意見や質問をする機会を設けた。	
			(外部評価) 毎月1回職員会を開催し、運営に関する意見を出し合っている。管理者は、出された意見を施設長に相談して対応している。職員の質の向上を図るために、研修を受けやすいよう配慮され、研修内容については職員全員に報告し共有している。職員の資格取得の目標を立案、バランススコアカードを作成して支援している。また、全職員がキャラバンメイトの講義を受講し、認知症サポーターの養成に協力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度を年に2回取り入れ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。資格取得後は、資格手当を支給している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月、職員が交代で愛媛県地域密着型サービス協会の研修会に参加している。口腔ケアの勉強会や施設内の勉強会に参加しレベルアップを図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市内グループホーム交流会があり、管理者や職員が参加している。その際、情報交換や勉強会などを行いサービスの質の向上を図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人様の意思を尊重し、不安なく生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用者様の思いを理解した上でご家族の意見や立場を受け止め、安心して入居できる関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込み者の状態により、グループホームが適切でないと思われた場合は、他のサービスも視野に入れ、必要によっては他のサービスを紹介する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) おやつ作りや外食を職員と一緒にいき、共に過ごし支え合う関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族がユニット内で溶け込み、くつろぎの時間が持てるよう面会しやすい雰囲気作りに努めている。毎月のおたよりにて遠方でなかなか面会に来られないご家族様にも生活ぶりがわかるよう努めた。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人や家族の面会は、積極的に受け入れている。遠方などで面会に度々来られないご家族様とは電話にてやりとりして頂いている。また、故郷のお祭りに行かれ楽しまれた。 (外部評価) 入居時に、これまでの馴染みの人や場所の情報を家族から聞き取り、センター方式のアセスメントシートに記録し、職員間で共有している。夫婦が別々の施設に入居している利用者があり、面会できるように個別の支援をしている。また、利用者の希望に応じて、隣の市の秋祭りを見に行くなど家族の協力のもと支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様の性格や利用者様同士の関係性を把握しトラブルがないように席の配置など考慮している。また、職員が間を取り持つことで穏やかに過ごすことができている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても相談や支援に関わり合う姿勢である。退去され、他施設へ入居された方のご様子を見に行ったことがある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思確認が難しい利用者様は、表情や態度などから心理を読み取り、ご利用者様の気持ちを把握できるように努めている。 (外部評価) 利用者の話をよく聞き、一人ひとりの思いや希望に沿えるように心がけており、職員は新たに得られた情報は申し送りノートで確認し、職員間で共有して支援している。急ぐ場合は、管理者から家族に電話で相談するようにしている。利用者が自分で言えない場合は、職員が利用者の表情や行動等から把握して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前にセンター方式を利用し、ご利用者様の生活歴や環境などを把握している。入居後も、ご利用者様やご家族様との会話のやり取りにて情報収集している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員会でカンファレンスを実施し、一人ひとりの生活状態を話し合い、現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご利用者やご家族の意向を確認した上で、カンファレンスを行い、話し合い、介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者や家族の意向を反映して職員間で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。1か月に1回カンファレンスを実施してモニタリングを行い、6か月に1回介護計画を見直している。状態の変化があればその都度見直しを行っている。利用者の状態に応じて、カンファレンスに家族も参加して、意見や要望を踏まえて介護計画の見直しを行っている。計画作成担当者が介護計画を家族の面会時に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は個別ケースに記録している。月1回の職員会でお一人おひとりの情報を共有して介護計画を作成している。また、「申し送りノート」を活用し、情報の共有をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 協力機関の病院受診は、職員が付き添い介助している。併設しているディサービスと合同で行事を行うことがある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 秋祭りには、太鼓台が毎日施設内に来て、地域の方々とふれあいを持つことができた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力病院がかかりつけ医のご利用者様が多い。眼科や 耳鼻科など、ご利用者様がご希望される病院には、継 続して受診して頂いている。	
			(外部評価) 法人の病院と医療連携体制が整っているため、入居時 にかかりつけ医の変更を希望する利用者が多い。協力 病院の受診は、職員が付き添っている。歯科は往診が あり、眼科や耳鼻科等の専門外来に通院する場合は、 家族が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 2名の看護師が勤務。気づいたことや変化があればただ ちに看護師に報告し相談している。また、看護師から 診療内容や病状より介護職員へ適切に指示が出されて いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時に施設での状態や認知面について詳しく情報提 供をしている。定期的に病院に行き、状態把握に努め ている。病院内の地域連携室と連携を取りながら家族 を含めカンファレンスを行い、早期退院に努めてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 「ターミナル指針」を作成し、入居時にご家族様に説 明し同意を得ている。看取りが必要となれば、他ユ ニットが実施したので携わった職員に何でも聞き、 チーム一丸となって取り組む。	
			(外部評価) 「ターミナル指針」を作成している。入居時に看取り の意向を確認をして、重度化した場合には、その都度 協力医の往診を受けて説明を行い、家族の同意を得て いる。今までに、利用者や家族の要望に応じて1名の 看取りを行っている。終末期には家族も寝泊りができ る環境を整えている。法人や事業所の看護師による看 取りについて、勉強会を定期的実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生対応マニュアルを作成し、周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は、施設全体で年2回実施している。夜間想定で1回実施している。 (外部評価) 複合施設合同で、消防署の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。また、運営推進会議の参加者と一緒に、避難訓練やAEDの使用方法等について体験して、意見交換が行われている。災害時の職員の緊急連絡網の整備はできているが、実践の訓練には至っていない。災害時に備えた備蓄品等は完備している。	災害時の職員連絡網の実践訓練を行い、職員間の協力を強化することが望まれる。また、利用者の誘導特に夜間は職員の避難誘導だけでは限界があるため、管理者は、地区の消防団の協力が得られるよう話し合いを考えており、一緒に訓練を行うことが望まれる。また、災害時備蓄品の食料を、防災訓練に参加した地域住民の方と一緒に食べながら、防災意識を高め、相互の協力体制が構築できることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は丁寧な声掛けをするよう心掛け、ご利用者様の自尊心や羞恥心に配慮した支援に努めている。 (外部評価) プライバシー保護マニュアルを作成しており、日常のケアや声かけなどあらゆる場面で、利用者の不快にならないよう小さな声で話しかけ、気を付けて支援が行われている。職員会で話し合いの機会を持ち、職員間で共有している。トイレ誘導時には利用者の状態に応じて排泄をゆっくりできるように外で待ち、身体をさらず場面では声かけを行い羞恥心を感じさせないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思決定が困難なご利用者様には、選択できるように声掛けをしたり、表情や動作などより推察している。また、無理強いをしないように心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 施設としての1日の流れはあるが、ご利用者様の体調や意向を尊重し、一人ひとりのペースを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 手持ちのクリームや化粧水を使い美容に心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 委託業者が副菜の調理などを行っている。ご飯は各ユニットで炊飯している。おやつは、なるべく手作りするよう心掛け、ご利用者様にもお手つだいして頂いている。食後の洗い物やお盆拭きなどはお願いしている。	
			(外部評価) 複合施設の1階の厨房で委託業者が副食等の調理をし、各ユニットで炊飯している。ミキサー食は厨房で作るが、それ以外は、各ユニットで利用者の嚥下状態に応じて食事形態を工夫している。職員も食事を一緒に囲み介助しながら食事をしている。また、利用者の嗜好調査をして、嫌いな食材等の変更も行っている。また、回転ずしや法人の病院内展望のよいレストランに行つて外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士による献立なので、栄養バランスは取れていると思われる。1日の摂取量をチェックシートに記入している。糖尿病のご利用者様には、看護師の指示にてご飯量を決め、また、糖分をラカントなどに換え提供している。水分は定時に飲用している。入浴後にはスポーツ飲料を飲用している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科医の診察を受け、口腔ケアの指導を受ける。毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。できないご利用者様には介助している。週1回、歯ブラシとコップの消毒と義歯の洗浄を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄リズムを把握すると共に、職員が声掛け・誘導を行いトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握しており、それに基づき声かけをして日中は全員トイレ誘導をしている。また、状態によりおむつを使用している利用者もいるが、夜間も利用者からの訴えによる対応や、声かけをするなどトイレ誘導介助を行っている。夜間のみポータブルトイレを使用するなど、一人ひとりに合った排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 朝食前に牛乳を飲用したり、水分補給や体操、散歩などの運動や腹部マッサージを実施し、なるべく自然に排便できるように努めている。それでも排便の無い場合は、看護師の指示にて対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴を実施している。お湯の温度や浴槽に浸かる時間などは、ご利用者様の希望をなるべく取り入れるように努めている。	
			(外部評価) 利用者は週3回入浴している。浴室には、特殊浴槽が設置され、浴槽をまたがずに入浴できる構造になっており、安全に入浴できるように支援している。入浴が苦手な利用者には、無理強いすることなく、時間や声かけする職員を変える工夫をして入浴できるよう配慮している。また、柚子湯の入浴を楽しんだり、入浴後にはボディークリームを塗布して保湿に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣を大切にし、意思確認などを行い就寝したり臥床したりして頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診により、薬の変更があれば、看護の申し送りノートに記載し周知している。作用や副作用などは、薬局からの薬剤情報を健康チェックのファイルに個々に綴じている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意なことやお好きなことを把握し、その人に応じた支援を行っている。また、散歩（外気浴）等で気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には、施設内を散歩したり、季節に咲く花を観るため外出している。また、外食されお好みの物を食べられた。	
			(外部評価) ばらや紫陽花等の花見や、近くのテーマパークにお弁当を持参して、車椅子用車輛や大型乗用車を活用して、大勢で外出を楽しんで帰ることもあり、職員全員で安全に外出を支援している。日常的には、近所の畑や寺院の境内まで散歩したり、利用者の希望に応じてスーパーに買い物外出できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には、管理者が小口の預かり金を管理している。毎月、預かり金の出納帳をご家族様に送付し報告している。少額の手持ち金を管理しているご利用者様もおられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族様との電話は職員が取り次ぎ、ご利用者様とやり取りがしやすい環境を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室やフロアより外の景色を見て季節を感じているご利用者様もいる。季節感を感じられるような壁画などをご利用者様も一緒に作成し飾っている。</p> <p>(外部評価) 共用空間は、明るく開放感があり落ち着いた雰囲気、季節のひな人形が飾っている。オープンキッチンにはテーブルが置かれ、ソファでくつろいだり、好みの場所で利用者同士談笑している。ユニット間の利用者の交流があり、カラオケ等に参加したり和やかな雰囲気では過ごしている。また、加湿器を設置して感染予防に努めている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用スペースには、くつろげる場所を2ヶ所設け、状況に応じて居場所の変更ができるように環境を整えている。また、居室でゆっくり過ごされたい時は、居室でくつろいで頂いている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室やフロアより外の景色を見て季節を感じているご利用者様もいる。お一人おひとりの馴染みの物を配置し、心地よく過ごせるように配慮している。</p> <p>(外部評価) 窓は大きく、居室から遠くの海や近くの山々を見渡すことができ、安全にも配慮されている。居室には、エアコン、電動ベッド、チェスト、洗面台が備え付けられている。自宅で愛用していたテレビ、抱き人形、家族写真や位牌などが置かれており安心できる空間となっている。また、利用者が家族と和やかに談笑しており居心地よく過ごしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 夜間は、明るさを考慮し、安全に生活が送れるよう環境作りに努めている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300190
法人名	社会福祉法人 愛美会
事業所名	グループホーム 三島の杜
所在地	愛媛県四国中央市上柏町202-1
自己評価作成日	平成 28 年 2 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設し、はや2年が経とうとしています。居室の大きな窓からは、景色を一望することができ、四季の移り変わりを目の当たりにすることができます。殊に夏には、花火大会をユニット内から見て楽しむことができます。「尊厳を守り、個性を大切に、その人らしい生き方を」という目標には、これまで通りの暮らしが継続でき、ご利用者様の意思を尊重し、その人らしく過ごして頂きたいという思いが込められています。そして、それが実践できるように職員が一丸となって努めています。看護師を2名配置し、日常の健康管理は基より医療連携体制が整っている為、ご利用者様やご家族様に安心して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域密着型介護老人福祉施設等に併設されている。法人の理念を踏まえて、職員間で話し合い行動目標を作成して、利用者が安全に笑顔で過ごせるように日々の暮らしを支えている。利用者が穏やかに過ごされていることからそのことが伺える。事業所を福祉のコミュニティの場として地域住民の健康づくりに提供するなどし、地域の方々と信頼関係を構築している。また、職員の研修会の参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会への参加の機会が豊富である。法人は総合病院を運営しており、密接な医療連携を活かして看取りにも積極的に取り組んでおり、利用者や家族には安心につながり、高く評価できる点である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム三島の杜

(ユニット名) あじさい

記入者(管理者)

氏名 香川 美保

評価完了日 平成 28 年 2 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を基にご利用者やご家族様への支援を心掛けている。職員間においても同様に共有し実践している。</p> <p>(外部評価) 開設当初に作られた理念を事業所内のよく見える場所とスタッフルームに掲示している。理念を踏まえて、事業所で行動目標を作成して各ユニットに掲示している。相手の気持ちに寄り添って利用者の日々の暮らしを支えている。毎月1回職員会で理念について話し合いを行い、職員間で共有し実践につなげている。新人職員には、入職時に法人での研修会で理念の趣旨を説明し共有するようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 天気の良い日には施設内の散歩をし、施設周辺を散歩されているご近所の方と挨拶を交わしている。介護予防を開催し、参加して頂いている。夏祭りや秋祭りにも、地域の方々と交流することができた。また、幼稚園児が来所し、楽しく交流することができた。「鶴亀」が施設内で実演販売をし見学したり食べたりと楽しく過ごせた。ご近所の方も買いに来られた。</p> <p>(外部評価) 事業所周辺の畑に花や野菜作りをしており、近隣の方と挨拶を交わしている。事業所の交流広場で介護予防教室を開催し、複合施設の利用者や地域住民と一緒に、毎月1回ボールを使った「貯筋体操」を実施し積極的に交流を深めている。また、近くの幼稚園児の訪問があり、肩たたき等の交流や毎月1回傾聴ボランティア2名の訪問があり、利用者の楽しみになっている。複合施設の夏祭りには家族ほぼ全員が参加しており、管理者は、今後地域の方にも参加を呼びかけ交流を図りたいと考えている。自治会には加入していないが、地元の職員から地域の情報を得ることができる。地域の祭りに参加したり、複合施設に図書貸し出しコーナーを設置して地域との交流に積極的に取り組んでいる。</p>	利用者が暮らしていくためには、地域とのつながりが大切であり、複合施設として高齢者の福祉の情報提供や、運営推進会議で地域との交流について参加者と意見交換を行い、積極的に地域との交流を深めていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 入居者の親族の方より、他施設も含めた利用の相談などがありアドバイスした。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、事業報告、事故・ヒヤリハット報告、活動状況などを報告を行っている。その際意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、民生委員、地区役員、寺院住職、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会議では、事業所の活動報告やヒヤリハット報告など参加者との意見交換が活発に行われている。また、避難訓練の見学をして意見交換を行ったり、テーマを決めて高齢者介護の知識が深められるように講演を実施している。参加できない家族には家族会で会議の報告をし、毎月家族に送付している「〇月のおたより」で運営推進会議の参加をお知らせしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 地域包括支援センターの方や高齢介護課の方が運営推進会議に参加して頂き、事業所の実情や取組みを伝えている。市の担当者が1人の利用者様の退去に関して協力して頂いた。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に地域包括支援センター職員か市職員いずれかが参加し、意見や助言をもらっている。3か月に1回開催されるグループホーム交流会は、担当の事業所がテーマを決めて話し合いを行い、市担当者も参加している。また、分からないことや疑問点がある場合には、その都度相談を行い助言を受け協力関係を築いている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束の研修を受けた職員が勉強会で報告し、身体拘束の内容や身体拘束をしてはいけないと意識付けを行い取り組んでいる。土・日・祝日は、日直者が外部の方の時間があるので施錠している。平日は、入居者様の状態に応じ、9時～17時の間は開けるように努めている。</p> <p>(外部評価) 法人の施設全体会を毎月1回開催し、身体拘束の研修を行い、身体拘束をしない方針が職員に根付いている。職員会でも勉強会を行い新人職員の基本的な理解を深め、職員間で共有している。利用者の安全面を考え、夜間のみ歩行の不安定な利用者にはセンサーマットを使用している。家族には入居時に身体拘束をしないケアの取組みについて説明をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の研修を受けた職員が勉強会で報告し周知している。不適切な言葉掛けがあれば、職員間で注意しあっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 入居者1名の方が、成年後見制度の補佐人を弁護士に依頼している。また、成年後見制度について学べように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前の面接にて事業所の説明を行っている。契約時には、重要事項説明書を用いてご利用者様・ご家族様にわかりやすく説明している。また、その際、不安や疑問点を尋ね、わかりやすく説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や家族会開催時、また、担当者会議等にて、ご利用者様やご家族様のご意見やご要望をお聞きしている。また、家族会開催時にアンケート調査を実施し、運営に反映するよう努めている。	
			(外部評価) 利用者には日々の暮らしの中で、家族には面会時や運営推進会議で要望や意見を聞いている。家族会を年2回開催し、日程は事業所が決めている。来所時アンケート調査を実施、参加できない家族にはアンケートを郵送し確認をし、家族の意見や要望を利用者サービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の職員会で管理者と職員の意見や提案を聞く機会を設けている。解決が難しい場合は管理者から施設長に相談し対応している。9月の職員会では、施設長が参加し共用型デイ開設に関して職員が意見や質問をする機会を設けた。	
			(外部評価) 毎月1回職員会を開催し、運営に関する意見を出し合っている。管理者は、出された意見を施設長に相談して対応している。職員の質の向上を図るために、研修を受けやすいよう配慮され、研修内容については職員全員に報告し共有している。職員の資格取得の目標を立案、バランススコアカードを作成して支援している。また、全職員がキャラバンメイトの講義を受講し、認知症サポーターの養成に協力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度を年に2回取り入れ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。資格取得後は、資格手当を支給している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月、職員が交代で愛媛県地域密着型サービス協会の研修会に参加している。口腔ケアの勉強会や施設内の勉強会に参加しレベルアップを図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市内グループホーム交流会があり、管理者や職員が参加している。その際、情報交換や勉強会などを行いサービスの質の向上を図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人様の意思を尊重し、不安なく生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用者様の思いを理解した上でご家族の意見や立場を受け止め、安心して入居できる関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込み者の状態により、グループホームが適切でないと思われた場合は、他のサービスも視野に入れ、必要によっては他のサービスを紹介する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) おやつ作りや外食を職員と一緒にいき、共に過ごし支え合う関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族がユニット内で溶け込み、くつろぎの時間が持てるよう面会しやすい雰囲気作りに努めている。毎月のおたよりにて遠方でなかなか面会に来られないご家族様にも生活ぶりがわかるよう努めた。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人や家族の面会は、積極的に受け入れている。遠方などで面会に度々来られないご家族様とは電話にてやりとりして頂いている。また、故郷のお祭りに行かれ楽しまれた。 (外部評価) 入居時に、これまでの馴染みの人や場所の情報を家族から聞き取り、センター方式のアセスメントシートに記録し、職員間で共有している。夫婦が別々の施設に入居している利用者があり、面会できるように個別の支援をしている。また、利用者の希望に応じて、隣の市の秋祭りを見に行くなど家族の協力のもと支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様の性格や利用者様同士の関係性を把握しトラブルがないように席の配置など考慮している。また、職員が間を取り持つことで穏やかに過ごすことができている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても相談や支援に関わり合う姿勢である。退去され、他施設へ入居された方のご様子を見に行ったことがある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思確認が難しい利用者様は、表情や態度などから心理を読み取り、ご利用者様の気持ちを把握できるように努めている。 (外部評価) 利用者の話をよく聞き、一人ひとりの思いや希望に沿えるように心がけており、職員は新たに得られた情報は申し送りノートで確認し、職員間で共有して支援している。急ぐ場合は、管理者から家族に電話で相談するようにしている。利用者が自分で言えない場合は、職員が利用者の表情や行動等から把握して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前にセンター方式を利用し、ご利用者様の生活歴や環境などを把握している。入居後も、ご利用者様やご家族様との会話のやり取りにて情報収集している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員会でカンファレンスを実施し、一人ひとりの生活状態を話し合い、現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご利用者やご家族の意向を確認した上で、カンファレンスを行い、話し合い、介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を反映して職員間で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。1か月に1回カンファレンスを実施してモニタリングを行い、6か月に1回介護計画を見直している。状態の変化があればその都度見直しを行っている。利用者の状態に応じて、カンファレンスに家族も参加して、意見や要望を踏まえて介護計画の見直しを行っている。計画作成担当者が介護計画を家族の面会時に説明し同意を得ている。	介護計画は職員が必要時に確認しているが、利用者の個々の支援内容を正しく理解し、より統一したケアができることが望まれる。利用者がよりよく暮らせるための課題やケアについての気づき等、介護計画の見直しに活かせる根拠ある記録の取り方について、職員間で話し合いや勉強する取組みができるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は個別ケースに記録している。月1回の職員会でお一人おひとりの情報を共有して介護計画を作成している。また、「申し送りノート」を活用し、情報の共有をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 協力機関の病院受診は、職員が付き添い介助している。併設しているデイサービスと合同で行事を行うことがある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 秋祭りには、太鼓台が毎日施設内に来て、地域の方々とふれあいを持つことができた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力病院がかかりつけ医のご利用者様が多い。眼科や 耳鼻科など、ご利用者様のご希望される病院には、継 続して受診して頂いている。	
			(外部評価) 法人の病院と医療連携体制が整っているため、入居時 にかかりつけ医の変更を希望する利用者が多い。協力 病院の受診は、職員が付き添っている。歯科は往診が あり、眼科や耳鼻科等の専門外来に通院する場合は、 家族が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 2名の看護師が勤務。気づいたことや変化があればただ ちに看護師に報告し相談している。また、看護師から 診療内容や病状より介護職員へ適切に指示が出されて いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時に施設での状態や認知面について詳しく情報提 供をしている。定期的に病院に行き、状態把握に努め ている。病院内の地域連携室と連携を取りながら家族 を含めカンファレンスを行い、早期退院に努めてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 1名：ターミナル中 1名：ターミナルの方、10月に死去 ご家族と話し合いを持ち、ご本人が苦痛なく旅立てる よう、また、職員が不安なく対応できるよう共有し、 医療連携を密に行い、トラブルもなく看取ることがで きた。	
			(外部評価) 「ターミナル指針」を作成している。入居時に看取り の意向を確認をして、重度化した場合には、その都度 協力医の往診を受けて説明を行い、家族の同意を得て いる。今までに、利用者や家族の要望に応じて1名の 看取りを行っている。終末期には家族も寝泊りができ る環境を整えている。法人や事業所の看護師による看 取りについて、勉強会を定期的実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生対応マニュアルを作成し、周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は、施設全体で年2回実施している。夜間想定で1回実施している。 (外部評価) 複合施設合同で、消防署の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。また、運営推進会議の参加者と一緒に、避難訓練やAEDの使用方法等について体験して、意見交換が行われている。災害時の職員の緊急連絡網の整備はできているが、実践の訓練には至っていない。災害時に備えた備蓄品等は完備している。	災害時の職員連絡網の実践訓練を行い、職員間の協力を強化することが望まれる。また、利用者の誘導特に夜間は職員の避難誘導だけでは限界があるため、管理者は、地区の消防団の協力が得られるよう話し合いを考えており、一緒に訓練を行うことが望まれる。また、災害時備蓄品の食料を、防災訓練に参加した地域住民の方と一緒に食べながら、防災意識を高め、相互の協力体制が構築できることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は丁寧な声掛けをするよう心掛け、ご利用者様の自尊心や羞恥心に配慮した支援に努めている。 (外部評価) プライバシー保護マニュアルを作成しており、日常のケアや声かけなどあらゆる場面で、利用者の不快にならないよう小さな声で話しかけ、気を付けて支援が行われている。職員会で話し合いの機会を持ち、職員間で共有している。トイレ誘導時には利用者の状態に応じて排泄をゆっくりできるように外で待ち、身体をさらず場面では声かけを行い羞恥心を感じさせないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思決定が困難なご利用者様には、選択できるように声掛けをしたり、表情や動作などより推察している。また、無理強いをしないように心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 施設としての1日の流れはあるが、ご利用者様の体調や意向を尊重し、一人ひとりのペースを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 手持ちのクリームや化粧水を使い美容に心掛けている。入浴後などの髪の毛の分け方やヘアークシンの留め方などご利用者様の好みを取り入れている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 委託業者が副菜の調理などを行っている。ご飯は各ユニットで炊飯している。おやつは、なるべく手作りするよう心掛け、ご利用者様にもお手つだいして頂いている。食後の洗い物やお盆拭きなどはお願いしている。	
			(外部評価) 複合施設の1階の厨房で委託業者が副食等の調理をし、各ユニットで炊飯している。ミキサー食は厨房で作るが、それ以外は、各ユニットで利用者の嚥下状態に応じて食事形態を工夫している。職員も食事を一緒に囲み介助しながら食事をしている。また、利用者の嗜好調査をして、嫌いな食材等の変更も行っている。また、回転ずしや法人の病院内展望のよいレストランに行ってお食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士による献立なので、栄養バランスは取れていると思われる。1日の摂取量をチェックシートに記入している。糖尿病のご利用者様には、看護師の指示にてご飯量を決め、また、糖分量をラカントなどに換え提供している。水分は定時に飲用している。入浴後にはスポーツ飲料を飲用している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科医の診察を受け、口腔ケアの指導を受ける。毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。できないご利用者様には介助している。週1回、歯ブラシとコップの消毒と義歯の洗浄を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄リズムを把握すると共に、職員が声掛け・誘導を行いトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握しており、それに基づき声かけをして日中は全員トイレ誘導をしている。また、状態によりおむつを使用している利用者もいるが、夜間も利用者からの訴えによる対応や、声かけをするなどトイレ誘導介助を行っている。夜間のみポータブルトイレを使用するなど、一人ひとりに合った排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給や体操、散歩などの運動や腹部マッサージを実施し、なるべく自然に排便できるように努めている。それでも排便の無い場合は、看護師の指示にて対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴を実施している。お湯の温度や浴槽に浸かる時間などは、ご利用者様の希望をなるべく取り入れるように努めている。	
			(外部評価) 利用者は週3回入浴している。浴室には、特殊浴槽が設置され、浴槽をまたがずに入浴できる構造になっており、安全に入浴できるように支援している。入浴が苦手な利用者には、無理強いすることなく、時間や声かけする職員を変える工夫をして入浴できるよう配慮している。また、柚子湯の入浴を楽しんだり、入浴後にはボディークリームを塗布して保湿に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣を大切にし、意思確認などを行い就寝したり臥床したりして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診により、薬の変更があれば、看護の申し送りノートに記載し周知している。作用や副作用などは、薬局からの薬剤情報を健康チェックのファイルに個々に綴じている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意なことやお好きなことを把握し、その人に応じた支援を行っている。また、散歩（外気浴）等で気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には、施設内を散歩したり、季節に咲く花を観るため外出している。また、外食されお好みの物を食べられた。 (外部評価) ばらや紫陽花等の花見や、近くのテーマパークにお弁当を持参して、車椅子用車輛や大型乗用車を活用して、大勢で外出を楽しんで帰ることもあり、職員全員で安全に外出を支援している。日常的には、近所の畑や寺院の境内まで散歩したり、利用者の希望に応じてスーパーに買い物外出できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には、管理者が小口の預かり金を管理している。毎月、預かり金の出納帳をご家族様に送付し報告している。少額の手持ち金を管理しているご利用者様もおられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族様との電話は職員が取り次ぎ、ご利用者様とやり取りがしやすい環境を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室やフロアより外の景色を見て季節を感じているご利用者様もいる。季節感を感じられるような壁画などをご利用者様も一緒に作成し飾っている。	
			(外部評価) 共用空間は、明るく開放感があり落ち着いた雰囲気、季節のひな人形が飾っている。オープンキッチンにはテーブルが置かれ、ソファでくつろいだり、好みの場所で利用者同士談笑している。ユニット間の利用者の交流があり、カラオケ等に参加したり和やかな雰囲気では過ごしている。また、加湿器を設置して感染予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用スペースには、くつろげる場所を2ヶ所設け、状況に応じて居場所の変更ができるように環境を整えている。また、居室でゆっくり過ごされたい時は、居室でくつろいで頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室やフロアより外の景色を見て季節を感じているご利用者様もいる。お一人おひとりの馴染みの物を配置し、心地よく過ごせるように配慮している。	
			(外部評価) 窓は大きく、居室から遠くの家や近くの山々を見渡すことができ、安全にも配慮されている。居室には、エアコン、電動ベッド、チェスト、洗面台が備え付けられている。自宅で愛用していたテレビ、抱き人形、家族写真や位牌などが置かれており安心できる空間となっている。また、利用者が家族と和やかに談笑しており居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや居室がわかりやすいように名前を表示したり、目印をつけている。夜間は、明るさを考慮し、安全に生活が送れるよう環境作りに努めている。	